

# 2026年 いざ世界遺産登録へ！

## 「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産を紹介します

### ●飛鳥水落遺跡（あすかみずおちいせき）

飛鳥時代に時間を管理するための施設があった場所です。

時間は、国を治めるために導入された重要な仕組みの一つです。共通した時間認識＝時刻を定めることは、役人の勤務や民衆の生活などを統一的に管理する基準となりました。時間を計るために、中国・唐の技術を取り入れた漏刻台（水時計）が使われています。

この遺跡は、東アジアで唯一現存する漏刻台の遺跡です。



▲飛鳥水落遺跡全景（提供：奈良文化財研究所）



▲外観イメージ（提供：株式会社アスカラボ）



▲漏刻イメージ（提供：株式会社アスカラボ）

### ●酒船石遺跡（さかふねいしいせき）

飛鳥宮跡の北東の丘陵に位置し、周りには石垣が巡っています。麓からは、亀形石槽等の石造物と石敷広場が発見されています。

酒船石遺跡は、天皇による国家祭祀と、天皇に権力が集まる国づくりのために、宮殿の周りに国を運営する施設があったことを表しています。また、日本の伝統的な信仰の場に、中国で聖獣とされる亀の形をした石槽や、百濟の切石技術が用いられるなど、東アジアとの交流による思想や技術の融合があったことを現在に伝えています。



▲酒船石



▲湧水施設



▲亀形石造物